

日台交流にかける思い ～江丙坤理事長インタビュー～

公益財団法人交流協会は、1972年12月の設立以来40年を数え、当「交流」の1月号は、40周年記念号として発刊しました。

このような機会に、これまで日台交流の促進のために、台湾側における指導者として常に中心に立ってこられ、また、台湾官界・政界の有力者として活躍を続けてこられ、直前には海峡交流基金会董事長として兩岸協議における台湾側責任者として大きな功績を上げられ退任された江丙坤台日商務交流協進会理事長に、日台交流にかける思いを「交流」誌上で語っていただければ、非常に貴重な機会になるのではないかとの思いで、江丙坤理事長にインタビューをお願いしたところ、快諾をいただきました。

先般5月20日に、江丙坤理事長が台日商務交流協進会及び会長をされている三三会のメンバーを引き連れて大阪に訪日された際に、日本側企業とのシンポジウム及び交流会の合間を縫って行われたのが本インタビューです。

インタビューの聞き手としては、1996年から1999年の3年半にわたる台湾在勤以来江丙坤理事長にご指導いただいていた「交流」編集・発行人の井上が当たらせていただきました。

また、江丙坤理事長の御発言には交流協会の見解と異なる部分もありますが、可能な限り正確に紹介することに努めました。

本インタビューは上記シンポジウムの会場となった三菱商事関西支社の一室を借りて行われました。このような貴重なインタビューの実施にご協力いただいた関係者の皆様に心から御礼申し上げます。
(「交流」編集・発行人 交流協会専務理事 井上 孝)



<江丙坤氏 略歴>

1932年12月16日生まれ、台湾南投県出身、東京大学農学（農業経済）博士（1971年）。

主な経歴：駐日本大使館（1967-1972）、東亜関係協会東京弁事処（1972-1974）、駐南アフリカ大使館（1974-1982）、経済部国際貿易局長（1988-1989）、経済部長（1993-1996）、行政院経済建設委员会主任委員（1996-2000）、立法院副院长（2002-2005）、海峡交流基金会董事長（2008-2012）、現在、台日商務交流協進会理事長・三三会会長

井上：まず、江丙坤理事長に御報告させていただきまして、私ども交流協会は1972年12月に設立されましたので、ちょうど昨年の12月で40周年を迎えました。

江理事長：40周年。早い。

井上：今年1月の私どもの月刊で「交流」という機関誌をもっておりまして、この1月号で40周年記念号を発行いたしました。これについては、岸田外務大臣と茂木経済産業大臣のお二方から祝辞をいただきまして、1月号を40周年記念にさせていただきますということがございました。

40周年を迎えたこの機会に、これまで長く日台交流につきまして台湾で指導的なお立場におられまして、現在でも台湾の政界・官界・経済界に幅広い影響力をお持ちでいらっしゃる江丙坤理事長に、これまでの日台交流の歴史、あるいは現状及び将来につきまして、率直なコメントをいただきまして、ぜひ「交流」の7月号において紹介をさせていただければということで、本日恐縮でございますが、インタビューという形で私から何点か質問をさせていただいて、お答えをいただき、それをご紹介させていただけたらと考えております。

まず現在の日台関係、これまで江丙坤理事長始め皆さま方のご努力もございまして、経済面だけではなく全面的に良好な関係があります。その中でも先般4月10日に漁業、ある意味で、江丙坤理事長始め台湾のいろいろな方にのどに刺さった唯一の骨ではないかと。日本側としても早く努力をすべきだというようなことをおっしゃって、何度もアドバイスいただいたわけでございます。この漁業の取り決めが4月10日にできたという形で、日台間において最後まで残っていた最大の懸案の一つが解決をしたということもございました。

これまで江丙坤理事長始め台湾の皆さま方のご努力もあってここまできた日台関係の現状について、江丙坤理事長から率直なご評価と申しますか、ご認識を承れたらというのが、まず第一点目の質問事項でございます。

江理事長：最近、馬総統はよく日台関係は過去40年来最高の時期にあるということを申しますが、

私も全く同感です。ふりかえてみますと1972年の日台国交断絶のときに私も現場にいた1人としまして、この40年間、紆余曲折はありながらも前にずっと進んできたという思いが非常に強く感じられます。

特に馬総統が就任したあと、かなり两岸関係の改善に力を入れまして、その結果两岸関係が平和的な方向に発展しつつ、また経済交流も頻繁になってきました。それと同時に、日本との関係もここ数年来大きな進捗があったということは、恐らく皆さんも認めるころだと思います。

もちろん日台関係はこれまで経済を中心として過去ずっと発展してきてまして、私など経済を担当している者から見れば、日本の投資と技術提携がなければ、今日の台湾経済はなかったといっても過言ではないと思います。特に、台中加工区設立時点におきましては、日本の企業、キヤノンのような電子加工を専門とする企業を中心にかなりの投資があったことによって、その後、台湾がICT王国になったといえると思います。これはやはり日本が蒔いた種から花が咲いたということです。

また当時、技術提携には許可がおりましたが、過去の統計を見ますと3分の2の技術提携は日本とのものでした。それはもちろん地理的歴史的要因によるものでございまして、その技術提携によって台湾に今日のような経済発展をもたらされ



ました。そういう経済交流において、日本が大きな役割を果たしてきました。

また、今日に至っても、台湾の産業構造改善の過程においては、どうしても日本の資本、日本の技術、これが台湾の構造改善に一番役立つと考えまして、私ども政府としましても日本との経済交流の強化に、ずっと取り組んできたわけです。

政治的な面では1972年に国交断絶がございまして、私どももかなり辛酸をなめました。断交前の私は毎日と言ってよいほど日本の外務省、通産省（当時）、大蔵省（当時）などに訪問をさせていただいたのですが、断交の日以降はドアをくぐる事が出来なくなりました。その時はやはり寂しい思いが非常にございました。どんなに小さなことでもすべて交流協会を通さないと駄目という過渡期がございました。

しかし、そのあと関係改善によって、徐々に官庁との接触も可能になり、今は恐らく自由自在にいろいろな交流ができると聞いております。日本からの訪問も局長クラスが台湾を訪問できるようになり、お互いの交流発展面で非常に助かっています。

特にここ数年来、いろいろな協定が結ばれました。台湾からの入国における査証免除の制度、札幌事務所の開設、それから、私が過去長いこと交渉をしておりました外国人登録の国籍欄の改正。それから私も締結に向けて非常に努力をしました投資協定が2011年9月に結ばれました。当時私もその討論に参加をしまして、「投資保護協定を先に調印すべきか」あるいは「中国との投資保護協定とどういう絡み合いがあるか」という討論をしました。最終的には、いや、日本はもう既に交渉は済んでいる、すぐ調印しますということで、2011年9月に投資保護協定が結ばれたのです。

また昔、私どもは、ミッション団を連れて、よく日華議員懇談会とか、与党・野党を訪問する中で、故宮博物院展示品の日本での展示について、

法律上の保護の問題を話し合いました。これも話し合いがまとまり、来年には日本の皆さまに台湾が保有している故宮のたくさんの宝物をお見せすることができます。漁業協定に関しましては、過去私どもも国会訪問のときには必ずテーマとして提起した問題ですが、今回十数年ぶりの交渉で、ようやく最終的にうまく決着しました。

過去私どもがいろいろな会議で、あるいは、ミッション団を連れて国会を訪問して、そのとき話題にしたテーマが、今では大体解決したように思います。馬総統の言う通り、いま日台関係は最高の時期を迎えています。特に経済交流、それから政府間によるいろいろな協定改正、もう一つは、やはり国民のお互いの好感度、3.11の東日本大震災において台湾国民が心から自発的に義援金を提供したということで、お互いの国民感情は今最高の時期であると私も深く感じております。

一昨年のことですが、義援金の明細を渡すために、私は王金平立法院長のお供をしましてホテルオークラ東京に宿泊いたしました。そこで明細をお渡しするセレモニーにも参加しましたが、翌日チェックアウトのときにホテルオークラの従業員が一行に並んで私たちを見送ってくれました。それだけでなく、羽田飛行場に行く途中、私たちは昼食のために八芳園に立ち寄ったのですが、八芳園で食事が終わった後、従業員のみなさんがそのレストランからずっと一行に並んで見送ってくださいました。ゲートまで遠いので、手前の方で手を振った人はすぐにまたゲートまで走って行って、ゲートでもう一度手を振って見送ってくださったのです。この様子が今の日台関係を象徴していると私は考えています。

もちろん断交当時の辛酸はまだ忘れられないものもございまして。当時私は事務次官で、当時の大臣がミッションを作って日本へ行きたかったのですが、ビザが出ませんでした。私は大臣に言われて交流協会に交渉に行ったのですが、どうしても

駄目だと言われました。それで私が団長になればどうかと言ったら、「あなたも駄目だ。あなたが顧問であればいい」ということになり、私が顧問としてミッション団をつくった辛い思い出が今もまだ残っています。

ですから、関係がよくなった今思いますことは、お互いに国益を超えて人間と人間の付き合い、そういうものを大事にしていかなないと駄目だということです。良い関係を長続きさせるためには、お互いに信頼関係をもって、本当の友人としてじっくり付き合っていかなければと考えています。

井上：ありがとうございます。現在の日台関係についての評価と合わせまして、これまでこの40年間、江丙坤理事長がご苦勞された点も含めて、お答え、アドバイスをいただきました。ありがとうございました。

二点目に入らせていただきたいと存じますが、今日のシンポジウム、パネルの議題の一つでもあったわけですが、日本と台湾の経済アライアンスを考えると、中国大陸、あるいは東南アジアをにらんで、日台企業のアライアンスということの重要性が非常に強まっていると思っております。まさに私ども交流協会としてもそういう形で日本の、特に地方の中小企業の皆さま方にいろいろな形でPRをしたり、情報共有をさせていただいております。

一方では、今後の两岸の関係をどう見るべきなのかという点についても、当然日本側にいろいろな意味での疑問点、あるいは問題意識をもたれる方も出てきております。その観点から二つ、具体的な観点からお聞きかせいただければと思います。

一つは、今日のパネルでも若干出ておりましたけれども、中国大陸の今後の成長の見込みはどのようなのだろうか。最近日本の中では、むしろ中国大陸の人口成長率が労働力人口を中心に屈折を向

かえつつあるのではないかというような中長期的な観点、あるいは、この前のリーマン・ショック直後の4兆元投資の後遺症が出てきているのではないかという短期的な観点ということで、短期的にも中期的にも少し中国大陸の経済が、今まで通りの延長線では進まないのではないかという、そういう不安をもちられる日本での向きが出てきております。

それについてぜひ、これまでこの馬英九第1次政権の際に、两岸関係の責任者としてご覧になってこられた江丙坤理事長がどのようにお考えになるのかというのが一つです。もう一つは、これはまさに江丙坤理事長がおやりになったわけですが、台湾において人民元の直接決済が開始されたわけで、これについて通貨が台湾の中で従来に比べれば人民元が自由に使われるようになることについて、两岸の経済交流が今までとは少し質が変わってくるのではないかという点について、一方では希望、期待をお持ちの方もいらっしゃいますが、一方では、やはり不安をお持ちになる方もいらっしゃいます。

今後两岸の経済交流を考えていきます際に、われわれ交流協会としても、日本の皆さま方にその点について、常に情報提供をしていく必要があるのかなということも考えております。ぜひ台湾の中で最も指導力がありお詳しい江丙坤理事長が、今後の中国大陸経済の成長見通しをどうお考えになるのか。それから、人民元の直接決済が開始されることの影響をどうご覧なのか、その2点についてコメントをいただければと思います。

江理事長：過去アメリカは世界経済の牽引者でした。そして恐らく日本、台湾、韓国は中国市場を対象とした加工品輸出が、経済発展の中心であったわけです。そのあと今度は中国が、高度成長を遂げまして、GDPも今は世界第2位、去年も8兆2千億ドルで日本の5.9兆ドルを超えています。

中国が第2位のGDP、日本が第3位のGDP、アジアのこの二つの国が協力して世界経済の牽引者になるべきだと私どもはよく考えます。中国の高度成長はびっくりするほどハイスピードです。統計によりますと、1991年から2011年の20年間にGDPが20倍、貿易が33倍に増えました。これはもちろん台湾のGDPの2.1倍、貿易の4倍、日本の統計はわかりませんが、恐らく日本をも超えるでしょう。それほど急速な成長を遂げました。

この急速な高度成長をもたらしたのは、日本、台湾、全世界の投資によるものと考えます。つまり、大きな土地面積、大きな人口、豊富な労働力、それにもう一つ大事なものは高度経済発展のための政府の努力、特に投資に対するいろいろな便宜措置、これが世界の資金を吸収して、現地の労働力、土地、政府と組み合わせることで今日までになったと私は思います。

今、中国は1人当たりのGDPは既に6,000ドルを超えています。つまり経済発展の段階が、第二段階へ入っているわけです。私どもがよく言うのは、台湾の企業が20年前に台湾から離れていった現象が、今、中国で発生しています。つまり、GDPの増加によって賃金が上がり、それに伴い3Kは嫌だということで労働力不足が起こる。人民元の切り上げがあり、労働者保護、環境保護の問題が出てきました。これは経済成長が新しい段階に入ったことによって必然的に起こったことで、もちろん今から成長率は鈍化していくでしょう。過去の20年間の平均は10%を超えています。今後それは不可能です。

それは当たり前の話で、成長が鈍るというわけではなくて、規模が大きくなったということですから、昨年の成長率7.8%というのはすばらしい成績だと私は考えます。今後は、今の政府の効率、政府の制度によって引き続き発展していくと確信します。

しかし中国は、今、日本流で言いますとエコノミックアニマルになっています。これは中央から地方の隅々まで政府の人々の頭にあるのは経済発展だけです。ですから、私がよく言うのは、「立っても経済、座っても経済」、書記、省長、市長、関係のない人でも、一言目には経済成長、また環境保護なのです。森林のいわゆるカバー率、共産党政権の下で全員が経済発展に努力しながら、環境の改善も考えています。それから外資の導入、そしてインフラの整備です。港、ハイウエー、高速鉄道などが整備され、新興都市がどんどんできています。

私は、今後も中国がこの7%、8%の目標を達成する努力をずっと続けていくと思います。それは彼らの計画の一つであって、計画達成のために全国一致して努力していくでしょう。政府の計画を見ますと、これから高度成長は無理だということはわかっているようです。また製造業だけでは駄目だということで、サービス産業のウエイトの増加、内需の拡大、観光、医療、そういう方向に力を入れていますので、恐らく今後そのままずっと経済成長の努力が推進されていくと思います。いま中国の地方に行くと、昨年は12%だとよく言われます。平均は7.8%ですが、地方を見ますと非常にいろいろな努力をしているということで、今後も発展は止まらないと思います。

中国は市場拡大のチャンスとして、サービス産業の発展と消費の増加、特に国内消費増加を考えていますし、また輸出から内需に切り替えています。このチャンスは見過ごすべきではないと思います。しかしこれらの過程において、私は台湾にとって安定した兩岸関係が不可欠だと考えています。

つまり、兩岸関係が緊張すると資本が入ってこないのみならず逃げていきます。安定した台中関係の中で台湾の投資関係の改善、自由化、ECFAによる孤立化を避ける努力、そしてECFAの後

にあるのは東南アジアです。東南アジアは台湾の貿易の18%を占めておりますし、シンガポールとの経済協定も交渉は大体まとまっています。これを調印すれば、恐らくいろいろな国が今度は忌憚なく台湾と取引をしたいという方向にいくと言っても過言でないでしょう。

もちろんスムーズな兩岸関係がいつまで続くか、私どもも政権交代等によりどう変わるか、本当はちょっと心配しています。いま中国元との精算のシステムは構築できましたし、中国元の決済も今は認めておりますが、ただそれだけのものがないので、恐らくもう少し時間を待たないといけません。もちろん換算して、大体値段を決めてくると思いますが、実際に直接取引する場合には、やはりそれなりのお金を持っていないと決済もできないということで、私はしばらく時間がかかると思っています。

ただ、このへんのことは私もあまり勉強してないのでよくわかりませんが、いま台湾においては、人民元による債券発行、それから、個人や会社の貯金も認めています。ですから、恐らく日本の円と同じく、国際化を待って初めて、たくさん利用されると思います。

井上：ありがとうございます。時間が迫っておりますので恐縮でございます。

江丙坤理事長には、これまで、私個人も含めまして、いろいろご指導を長く賜ってまいったわけでございます。ぜひこれからも、まさに台日商務交流協進会の理事長を新しくお引き受けになり、また三三会についても今後ともご指導をいただくと承っております。

ぜひこれまでの経験を踏まえまして、これからの日本、あるいは日本企業、あるいは交流協会も含めてで結構ですので、江丙坤理事長の、アドバイス、あるいは注文、おしかりも含めてで結構で

ございますので、忌憚のないご意見をいただければと思います。

江理事長：私は三三会会長になりましたし、それから、台日経済貿易発展基金会、台日商務交流協進会の理事長も担当いたしますので、これらを結束しまして、今回初めてこのミッション団をつくりました。私たちが架け橋になって日本からの投資、あるいは技術提携、あるいは合弁、あるいは中国と一緒にいくという関係ができればと思っています。日台の企業がいろいろな形でビジネスアライアンスをつくれるような環境、これを整えていきたいと考えています。これまでもその努力をずっと続けてきましたが、実際にはまだ思うような成果が上がっていません。

私が思いますには商社が一番コネを持っていますし、また銀行も顧客を持っています。それからベンチャーなども動員したいと思います。日本の企業ももう少し国際化して、特に中小企業は、台湾は国外ではないという気持ちで台湾に来て、台湾の人と知り合うというのはどうでしょう。日本の中小企業は海外へ行くのは億劫かもしれませんが、台湾に来て、そして台湾から日本に行ってお互いに交流して、信頼がおけるパートナーをつくり、そしてビジネス関係をつくっていく、これが最高だと私は思います。

そういう努力を今後も続けていきたいのです。ですから、将来は各県にもミッション団を送り、また各県からも台湾へ来てもらって、そして皆さんと一緒にセミナーや交流会を開催してお互いに名刺を交換すれば、興味のある人は自然にパートナーになると思います。

井上：短い時間でございましたが、貴重なお話をいろいろ承れました。どうもありがとうございます。